

在家勤行法則

特 100

514



始



在家勤行法則

先懺悔文

一及

我昔所造諸惡業

皆由無始貪瞋癡

大正
2.4.1
内交

從身語意之所生

一切我今皆懺悔

次三歸 三及

弟子某甲 盡未來際

歸依佛 歸依法

歸依僧

次三竟 三及

弟子某甲 盡未來際

歸依佛竟 きえぶつまはり

歸依法竟 きえぶつぽうまはり

歸依僧竟 きえそうまはり

次十善戒 三反

弟子某甲 でいむいふ
盡未來際 じんむらいさい

不殺生 ふころし

不偷盜 ふちうたう

不邪淫 ふじやいん

不妄語 ふまうご

不綺語 ふきご

不惡口 ふあくく

不兩舌 ふりやうざう

不慳貪 ふけんどん

不瞋恚 不邪見

次發菩提心真言 三反

字
せんがうぢーっしお いたたや
字

次三摩耶戒真言 三反

字
もんせんまや せきん
字

次光明真言 廿反或六百及千反

字
もんあほまやぶいろ 志やうま
字

字
ほぢらまらもんいままんいんら たら
字

香山文々

次高祖寶號 七文

南無大師遍照金剛

次和讚

真言安心和讚

歸命頂礼大日尊
八葉四重乃圓壇は
一切如來の秘要にて

衆生心地の曼荼羅なり
十方淨土乃諸聖密ハ
大日普門乃萬徳を
開きて示し尊なるハ

密教國土の外なるは
青龍阿闍梨の教誡よ
菩提を得るハ易けきこと
真言秘密より達するもの

得えづんと演のの心こころ

二ふた佛ぶつ出い世せはは中ちゆう間かんにに

果くわい報ほうつつくく生なまるるれれどど

いいううななるる宿しやく世せのの種しゆ因いんににそ

解げ脱だつのの時ときをを得えたたるるはは急きゆう

五ご濁だく惡あく世せはは此こゝににああららまま

上じやう根こん勝しやう慧えのの者ものははああららまま

如に説せつにに修しゆ行ぎやうすするる時ときはは

一いつににああららまま

正像末のへふとなんく
一念一時一生に
三密加持の不思議にして
無盡の功德圓滿

即身成佛せらるなり
下根劣慧のともぐらをも
皮定諦信りかば
一度神呪を唱ふも

無明を除くと説ゆ
一密おはるはあきらむる
増上縁の力こそ
三密具足乃時なり

終に佛果を證ぶ
過去に造り報は
盲聾啞の輩
生れて法門きく

唱とぶ、沙さ、也や、も、なな、ら、ぬ、身み、ハ
諸しよ、佛ぶつ、の、慈じ、悲ひ、も、遍へん、ぬ、べべ、し
か、ら、急いそ、衆しゆ、生じやう、を、救すく、ふ、れ、ハ
他た、力りき、の、方かた、便べん、勝すか、れ、し、も
真ま、言ごん、陀だ、羅ら、尼に、に、ま、る、か
中ちゆう、に、も、光くわう、明めい、真しん、言ごん、ハ
諸しよ、佛ぶつ、菩ぼ、薩さつ、の、總そう、呪じゆ、に、て
一いち、字じ、に、千せん、理り、を、含ふく、む、由ゆ、え

無邊の功德備を達り

信じて唱ふを以てハ

口稱の功力を因として

往生浄土と一筋り

安心後定後すべし

南無大師遍照尊

南無大師遍照尊

南無大師遍照尊

光明真言和讚

歸命頂礼大灌頂
光明真言功德力
諸佛菩薩の光明を

二十三字に蔵めり
この一字を唱ふハ
三世の佛に法を授け
香華燈明飲食を

供養の功德具足なり
阿彌陀と唱ふ功に六
諸佛諸菩薩もろもた
二世の來願をかたむけ
す

衆生を救ひて身なり
阿彌陀と唱ふれば
唱ふ我等の其また
大日如來お御身を

説法せうぽうのよよ姿すがたなり

月つき乃なり大印だいいんハ

生佛しやうぶつ本ほん二にと仰可おんかなり

一切いっさい衆生しゆじやうををももくくと

善提ぜんたいの道みちににぞぞ入いれれは

命いのちの宝珠ほうしゆの利益りやくににハ

此世このよををくくけけてて未み来らいまでまで

福寿ふくじゆ意いの如ごとくくななりりて

福寿ふくじゆ意いの如ごとくくななりりて

大安樂に身とてなす
心身習ふるおの人の
いふる罪も消滅し
華の臺に招く

心の蓮を開くなり

心唱する光明なり

無明盡して明となり

數多乃我等を攝取して

有縁の浄土に安まらん

心す清く心を唱へん

萬の願望成就して

佛も我等も隔たらず

ホトケ

神通自在の身を得て
文字を唱ふる功力は
罪障深き心も
造りし地獄も破らぬて

忽ち浄土と成りぬべし
亡者の為に呪を誦じて
土砂をば加持し
極重惡のよも

速得解脱と説きよふ

真言醍醐乃妙教は

餘教超過の御法にて

無邊の功德具々あり

説くもよみざる盡すも

南無大師遍照尊

南無大師遍照尊

南無大師遍照尊

弘法大師和讃

歸命頂禮遍照尊

寶龜五年の六月に

玉藻歸てふ讃岐酒

屏風浦に誕生

御歳七つ乃其時に

衆生の為に身を捨て

五の嶽より立雲乃

ハ

立る誓ぞ頼もき
遂よ乃ち延暦
末の年なる五月より
藤原姓の賀能等と

震且船よの里を得て
志る一を残一本の
松の先をとせよ廣く
弘めたる宗者をば

真言宗とぞ名づける

真言宗者乃安心ハ

上根下根の隔となす

凡聖不二と定まれば

下根よ深す易行よハ

偏に光明真言を

行住坐臥に唱ふハ

宿障何時く消え

往生淨土と定まぬり

不轉肉身成佛也

身ハ有明乃苔の下

誓ハ龍華の開きまて

忍法を照を遍照尊

仰げバ沁よハ高野山

雲の上人賤乃男も

結ぶ縁一の葛つら

進すすりて登のぼる嬉うれしきよ

昔むかし、國くに中ちゆう大おほ旱い魃で

野の山やまの草くさ木き皆みな枯かれぬ

其その時とき大だい師し勅ちよくをを受うけ

神かみ泉せん苑えんに雨あま請こい

甘かん露ろの雨あめを降ふりてハ

五ご穀こくの種こめと結むすばしめ

國くにの患いひを除のぞき去さる

功ハ今より此なり
吾日本の人民ハ
文化の花を咲かせ
金口の真説四句の偈を
國字で作る短歌
いろはにほとちりぬるを
わがよたれぞつねならむ
うめのたぐやまぢふらそ

あまのゆめみどゝ急ひもせず
いりたる無智の稚子も
習ふよ易き筆の跡
それども總持のふ字なれば

知れば知るはと意味深
僅よ四十七字ふく
百事を通ずる便利をも
思へば萬國天の下

御恩を受く人も多し

猶も誓乃其中心は

五穀豊熟富貴

家運長久智慧愛敬

息災延命且易産

殊に見る目も浅

業病難病受身

八十ハハ遺跡

よせて利益を成す
悪業深き
懸ぐぬ沖の捨小船
生死の苦海果もなり

誰を便乃細手繩
爰よ三地の菩薩あり
弘誓の船よ櫓械取り
救濟のくる御慈悲の

不思議ハ世々ノ新身
南無大師遍照尊
南無大師遍照尊
南無大師遍照尊

次回向 一及

願以此功德普及於一切
我等與衆生皆共成佛道

在家勤行法則畢

明治四十四年七月改刻

真言宗聯合法務所藏版

大正二年三月廿四日印刷
大正二年四月二日發行

不許
複製

發行所

同

發行所兼者
藤井佐兵衛

印刷所
京都市醒ヶ井通魚棚上ル
小林庄太郎

京都市寺町五條上ル
藤井文政堂

京都市三哲大宮東入
六大新報社

272
650

終

